

第2回ワークショップ テーマごと意見まとめ

1. 子育て・教育

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
子どもの居場所	学童・児童館・遊び場	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが高学年になるにつれて学童に行かなくなっている 児童館や子どもが遊べる公園が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 皆が楽しめる、子どもが来たくなる学童づくり 遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学年の子が楽しく学べる学童 子どもが気軽に登れるハイキングコース（芦屋の自然を子どもが享受する）
子育て環境	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 昔はコミュニティが子どもの成長を見守っていたが、今はコミュニティが十分に機能していない 	<ul style="list-style-type: none"> 大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になったら地域の子どもを育てる 小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする 	<ul style="list-style-type: none"> 親、学校以外の地域の人との新たな関係性づくり 保護者の視野を広げる機会づくり 学生など子どもと年の近いメンターの存在との日常的な交流（相談の場）
	目指す子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋の子どもは枠にはまり、活発さや元気がない 自分の地域から出ると自己発揮がしにくい スマホやゲームの恐ろしさを知らずに遊んでいる 地域の中で子どもが遊ぶ関係性が薄れている 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな地域で（様々な）活躍ができる子 自分で考えて行動する子 ITやゲームとうまくつきあっている子 多様な価値観を持てる子 自分で物事を考えられる子 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる たくさんの人の中で力を発揮できる子ども 元気・活発で枠にはまりすぎない子 コミュニケーションのとれる子 地域に思い入れのある子 	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋の良さを活かした子どもの経験をつくる 山や海など自然を活かした経験等テーマごとに色々な経験ができる環境づくり
	全般	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋に帰りたいたいと思っている人も多い（仕事、住宅の問題など） 	<ul style="list-style-type: none"> 働きながらの子育てを充実 	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋のよさを生かした子育て・教育環境の開発
教育	教育内容	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋の多様な人材を教育内容に生かしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育が日本一進んでいるまちにする 芦屋の個性、強みを活かした教育で、芦屋に愛着を持ち、将来芦屋に返してくれる子ども育てる 	<ul style="list-style-type: none"> IT教育の充実 自由な中で考える力を育てる 芦屋出身・居住の著名人や企業人によるキャリア教育

2 景観・居住環境

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
都市景観	規制		・ 色の統一、アースカラー	・ 高層建築物の建設等規制の強化
	無電柱化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電柱は景観面や、歩行者等の通行にもよくないので、無電柱化を進めるべき ・ 無電柱化は、災害発生時には修理・修繕の時間・コスト等で問題がある 	・ 無電柱化の長所と短所のバランス	
居住環境	空き家・空き地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化により空き地や空き家が増加し、駐車場やマンション化が進んでおり対策が必要 ・ 空き家を人に貸したくても耐震対策に多額の費用が必要なため、そのままとなっている場合がある 	・ スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古くて良いものを活かし、まちの価値を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ リノベーションをする人材にも芦屋に住んでもらってマッチング ・ 古い建物をリノベーションし、空き家をマッチング ・ 空き家を市が買い取り活用
	マンション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観にあわない大規模開発（マンション等）はいらない ・ 人口増加のためにはマンションも必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋にあったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる ・ 南北の規制のバランス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観規制の強化 ・ 芦屋らしさのためのマンション等の建築規制
	緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑の豊かさ、街路樹美しい。維持管理＝ブランドの維持→合意出来ているのは素晴らしい事 	・ 自然との共生	・ 今後も継続した取組が必要
	生活マナー		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の感性と行動力を生かし、育て、自然やまちなみの美しさなどを維持管理していく 	・ ボランティア活動しているグループとのコラボレーションやPR
公園	公園施設	・ 公園少ない、場所によって差がある		・ 公園・ドックラン併設

3 自然

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
自然の活用	賑わい・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を生かし切れていない(六甲山、芦屋川、芦屋浜) ・ 芦屋の自然の魅力を伝えるツール(広報、宣伝、イベント)が不足 ・ 小学生や大人には芦屋の自然を学ぶ機会や仕組みがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山、川、海が揃った芦屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信 ・ 芦屋川を人々の賑わいの場として活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マウンテンバイクで遊べるルールづくり ・ 若い人のピクニックの場所を大学生につくってもらう ・ 山のキャンプ場跡地の活用(プレーパークとか) ・ 小学生も楽しめるキャンプ場の活用 ・ ご当地マルシェ等食のイベント ・ 三条分室をハイカーやスポーツ愛好家の施設へ転用(トイレ休憩) ・ ガイド(市民ボランティア)、サポーター制度(大人、小学生) ・ 芦屋川の左岸/右岸を遊歩道にし、オープンテラスやイベント等を実施 ・ 子どもが気軽に遊びにいける場 ・ 芦屋の魅力を大学生などの協力を得て情報発信
保全	保全・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の維持管理には防災の観点が必要 ・ 獣害対策(獣害・外来種)が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災の観点を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の維持管理を進める 	

4 文化

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
文化施設	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本に触れる機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が楽しめる機会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配送または移動サービスの実施 ・ 学校に司書を配置
	美術博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面白い企画がない ・ プロデュース力が弱い ・ 行かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の連携を進め、市民が参加し、楽しめる美術館・博物館にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館1階を交流の場に活用 ・ 参加型行事 ・ 市民学芸員制度 ・ 無料券を市民に配布 ・ アニメとのコラボ
	文化ゾーン・施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化ゾーンへのアクセスが悪い ・ 南にかたまっているのので北にもほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦響の伝統をもっと大切にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無料の日 ・ 谷崎潤一郎記念館の認知度を高める ・ 特徴のある催しやイベントの実施 ・ 文化村のようにCGで昔の町を復活
文化力	文化資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人的資源（著名人）や文化的資源が活かしていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋の著名人を活用し、発信する ・ 小さいころから文化にふれる ・ 参画と協力の仕組み ・ 市民が文化を楽しみながら文化を育てられるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ‘著名人の応援をもっとあおぐ’ ・ 広報での著名人特集 ・ 中学校以上の講義に ・ 実はこんなすごい人が芦屋にはいることをPR ・ 芦屋に縁がある作家のファンからアイデアをもらう
	文化情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の発信拠点がなく、情報を伝える仕組みがない ・ 市職員のセンス、プロデュース力がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統、文化を市民へ発信にまちの魅力づくりにつなげ、お金持ち一辺倒の芦屋へのイメージを変える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生のトライアルウィークの活用 ・ SNS等による広報 ・ 市民の作品展示・発表機会の提供
交流	イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人や学校にイベントが伝わらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民や来訪者が芦屋の文化とまちを併せて楽しむことができる仕組みやしかけをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域イベントの実施（スタンプラリー・イベント） ・ 芦屋の有名スイーツ店とコラボした作品にちなんだメニュー提供 ・ 文化施設専門家の解説ツアー ・ 魅力的なコースマップづくり ・ 乗り降り自由のミュージアムバス

5 安全・安心

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
防災	防災意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害への市民の関心が薄く、危機感もなく、地震への備えが不足 ・ 震災経験者が職員も市民も少なくなっている ・ 市民の山側～海側のつながりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れないように、危険性を伝えていく ・ 大人に災害のこと、阪神・淡路大震災のことを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育（大学やNPOとのタイアップ） ・ 防災とまち歩きをからめたイベント ・ 市内各地がまとまってする防災訓練
	情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会たよりなど、町ごとの情報しかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民全体に知る機会を提供する 	
	ソフト・ハード		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の命を守るためのハード面はお金をかけても整備する ・ ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面にすぐにとりかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハード（津波対策） ・ ソフト（ハザードマップ、防災教育（こわさ、うごき方、自助/共助、逃げ方/助け方））
	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震時の火事、海側埋立地の液状化（老人施設多）などへの対応 ・ 耐震整備で古い建物をつぶすと芦屋らしさが減少するのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に芦屋らしさを保つため、技術で新しい芦屋らしさをつくる 	
防犯	技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯カメラの存在を知らない人が多い 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯カメラを市民にPRする ・ 自治会が市と協力し防犯カメラを設置する
全般	コミュニティ 自助・共助・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災と地域力には密接な関係がある（消防が行けない災害時には「共助」が大事） ・ 顔の見える地域であることが重要。自治会に入らない人が多く、新しく入ってきた人の顔が見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔が見える・顔が分かる状態にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会運営の改善や自治会に入ってもらえるようなルールづくり ・ ボランティアや自主防災会の強化 ・ 災害時の地域間（山側・海側）連携体制

6 コミュニティ

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
人のつながり	つながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> 市民同士のつながりを広げたいが、きっかけがわからない 	<ul style="list-style-type: none"> まちの縁側のような集える場を作り、人々の繋がりをつくるきっかけとする 	<ul style="list-style-type: none"> 地のものを応援
	市民活動	<ul style="list-style-type: none"> どんなコミュニティがあるかわからない 何かやりたいが、何があるかわからない 		<ul style="list-style-type: none"> 公共が管理運営するツールで活動募集を一元化し、情報を集約 コミュニティ活動をオープンにし、身近なラウンジ等で活動をPR ワークショップを増やす
地域コミュニティ	定住型コミュニティ(自治会)	<ul style="list-style-type: none"> 定住型コミュニティは必要なものだが、何をしているのか知らない人には敷居が高い 関係性が完成していて参加しづらい 自治会は限られた人だけで活動しており、若い人を巻き込みたいが、方法、スキルがわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 行政と住民の間をつなぐ開かれた自治会にする 誰もが参加しやすい、負担のかからない自治会の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 涼風町のような SNS での回覧の検討
	目的型コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 地縁が関係する団体(青年会や商工会等)は上下関係もあり閉鎖的 地域で活動している団体にどのようなものがあるのか存在がわかりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 定住していない人や若い人でも入りやすいコミュニティづくり 	
	世代間交流		<ul style="list-style-type: none"> 大学生と子どもとの世代間交流 大人の部活動など、やりたいことで集まる世代をこえたコミュニティづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 大学生と子ども会のマッチング(夏休み勉強会等) 中学校間の交流(部活単位) 大人の部活動と学生の部活動との交流

7 行政施策

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
財政状況	財政状況	<ul style="list-style-type: none"> 市の危機感がない 	<ul style="list-style-type: none"> 市民も市の財政状況を理解する必要がある 	
行政の体制	意思決定プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋駅南の再開発プロセスが住民に説明不足等、市の意思決定が不透明 市の総合計画が市民に知られていない 	<ul style="list-style-type: none"> 市は役所内の横のつながりを深めるとともに、住民の声をきき、透明な意思決定プロセスを踏む 市がどのような方向に進もうとしているのかもっとわかりやすくするとともに市民にも広く周知する 	
広報周知	広報あしや	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙は影響力あるので、誰にも見やすくわかりやすくする必要はある 広報紙に団体発信の情報が掲載できない 	<ul style="list-style-type: none"> 市の広報力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 広報に商店街の飲食店情報を掲載 市民が市のPR媒体をつくる
	広報体制	<ul style="list-style-type: none"> 自治会に年に200もの広報物が配布されることを改善する必要がある 		<ul style="list-style-type: none"> 市民に対する情報提供・広報を統括する部署が必要
市民協働	自治会の機能	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の位置づけがわからない 働いている人が参加しにくく、自治会ばなれが進んでいる 		<ul style="list-style-type: none"> 市民活動を大切にする
	市民-行政間コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 市民は市職員を話にくいと思っている 市民も市に対してえらそうな人が多く、市の政策を否定するだけや要望するだけになっている 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ 市職員は市民の声に耳をかたむけ、市民は市を理解する姿勢を持つ 行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の声を聴く工夫と市民意見の公開 市職員のコミュニケーション技術・コーディネート技術の向上

8 生活利便

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
公共施設		<ul style="list-style-type: none"> 公共施設が点在していて、行くのに時間もお金もかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが公共施設を便利に利用できる 	
交通手段	地域内移動	<ul style="list-style-type: none"> 自転車での移動は難しい バスの便数が少なく、JR、阪神、阪急とリンクしていない 	<ul style="list-style-type: none"> 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく芦屋に転入した人に着目した問題点の洗い出し レンタサイクルの充実や芦屋らしい自転車専用道路の整備 既存の駐車場を活用したカーシェアリングや相乗り支援 ターゲット(子育て、高齢、障がい)を絞ったバスの運賃支援 バス停や運行エリアの見直し等、地域のニーズにあったバスサービス 公共施設のみを回る等目的にあったコミュニティバスや地域内交通の導入
	来訪者の移動	<ul style="list-style-type: none"> 市民の便利さと来訪者の便利さを分けて考える必要がある 交通の情報がわからない 		<ul style="list-style-type: none"> 来訪者パーキングの整備とPR 来訪者駐車場を整備し、そこから公共交通等で市内を循環 来訪者駐車場からのコミュニティバスの充実、カーシェア活用
居住	空き家・空き地	<ul style="list-style-type: none"> 人口減により空き家や駐車場が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを支える 	<ul style="list-style-type: none"> 規制

9 商業・産業

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
商業	店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は、店もオシャレで良く、市内でもものを買う人が多かったが、店に個性がなくなってきた ・ いい店もあるが、儲からないため、後継者がいない ・ フードマーケットなど、出店の実験の場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋らしい小さい店、個人店が活躍できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助制度 ・ 店舗運営、起業のノウハウの共有
	賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの魅力がないので、人の流入が少ない ・ 商店街がただの通り道になってしまっている ・ いい店があるのに交通の便が悪いので、行きにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業と市がタイアップして JR 芦屋駅を中心として回遊できるまちにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の PR ・ ビジュアルで街の景色をデザイン
産業	財源がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場がないと環境面ではいいが、産業がないと税収少ないのは問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政を豊かにするため、産業を取り込む意識をみんながもつ ・ 芦屋らしい産業がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業の誘致 (IT 産業)
働く場	働き方		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家を活用した保育園やワーキングスペース
	起業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋で起業したい人はいるが、賃料が高いので出店しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の商店、起業を応援できるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業する人のサポート

10 共生

大項目	小項目	課題	将来の方向	必要な取組
福祉	地域福祉		<ul style="list-style-type: none"> 様々な施設(障がい、高齢、保育所)を地域の1つの資源として活用 	<ul style="list-style-type: none"> 民間の力を借りる仕組み
	子ども	<ul style="list-style-type: none"> 日曜日に子どもの面倒を見てもらえるところがない 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアしたい人とふれあいを求める人をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児や高齢者の見守りネットワークを利用
	高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の集まりはメンバーが固定され、新しい人が入りづらい グループホームの建設時に、土地の価値が下がる、住環境が悪くなると、地域の反対がある 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者や高齢者の長所を活かして、居場所や雇用の場など活躍できる場がある みんなが活用できる場(施設)となるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症・知的障がい者のカフェ 孤独死や虐待を防ぐシステム(宅配連携、地域ボランティア) 行政が話し合いの場をつくり、両者の主張や課題を解決する 施設が建設されても土地の価値が下がらないことを説明する
人権	性的マイノリティ等	<ul style="list-style-type: none"> 情報不足による無知ゆえの、自分と異なるものへの不安からくる「見た目」の差別がある 若い人はLGBTに対する固定概念がない人が多いが、高齢者は抵抗が大きい 無関心が課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティの当事者からの発信 地域を行政につなぐ(キャッチ、アウトリーチ) 地域社会教育等により、異なるものを「知る」環境・機会をつくる
	多文化共生		<ul style="list-style-type: none"> 文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち 	
	全般	<ul style="list-style-type: none"> 当たり前と思われることが「ハードル」になり、異質なものを受け入れる土壌(文化)がない 	<ul style="list-style-type: none"> 行政が情報受発信のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を深める 「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める 	